

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第119回

(平成29年10～12月期)

平成30年2月

桐生商工会議所

桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
2. 調査時点 平成29年12月1日
3. 調査期間 平成29年10～12月期
4. 調査対象企業数 396企業（うち回答企業数141企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数18企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数70企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数25企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数28企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。

このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で**-27**。前期（-35）比は+8ポイントであった。また前年同期（-29）比では+2ポイントであった。

業種別では、**建設業-22**（前期比-9、前年同期比-4）、**商業・サービス業-32**（前期比+16、前年同期比+18）、**機械金属製造業±0**（前期比+4、前年同期比-4）、**繊維製造業-46**（前期比+4、前年同期比-22）となった。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で**-30**。前期（-39）比は+9ポイント、前年同期（-36）では+6ポイントであった。

業種別では、**建設業-28**（前期比-9、前年同期比+13）、**商業・サービス業-38**（前期比+11、前年同期比+11）、**機械金属製造業±0**（前期比+15、前年同期比+11）、**繊維製造業-42**（前期比+8、前年同期比-18）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で**-35**。前期（-31）比では-4ポイント、前年同期（-32）比では-3ポイントであった。

業種別では**建設業-19ポイント**（前期比-19、前年同期比+16）、**商業・サービス業-45ポイント**（前期比-4、前年同期比+3）、**機械金属製造業-5ポイント**（前期比-5、前年同期比-10）、**繊維製造業-43ポイント**（前期比+10、前年同期比-17）となっている。

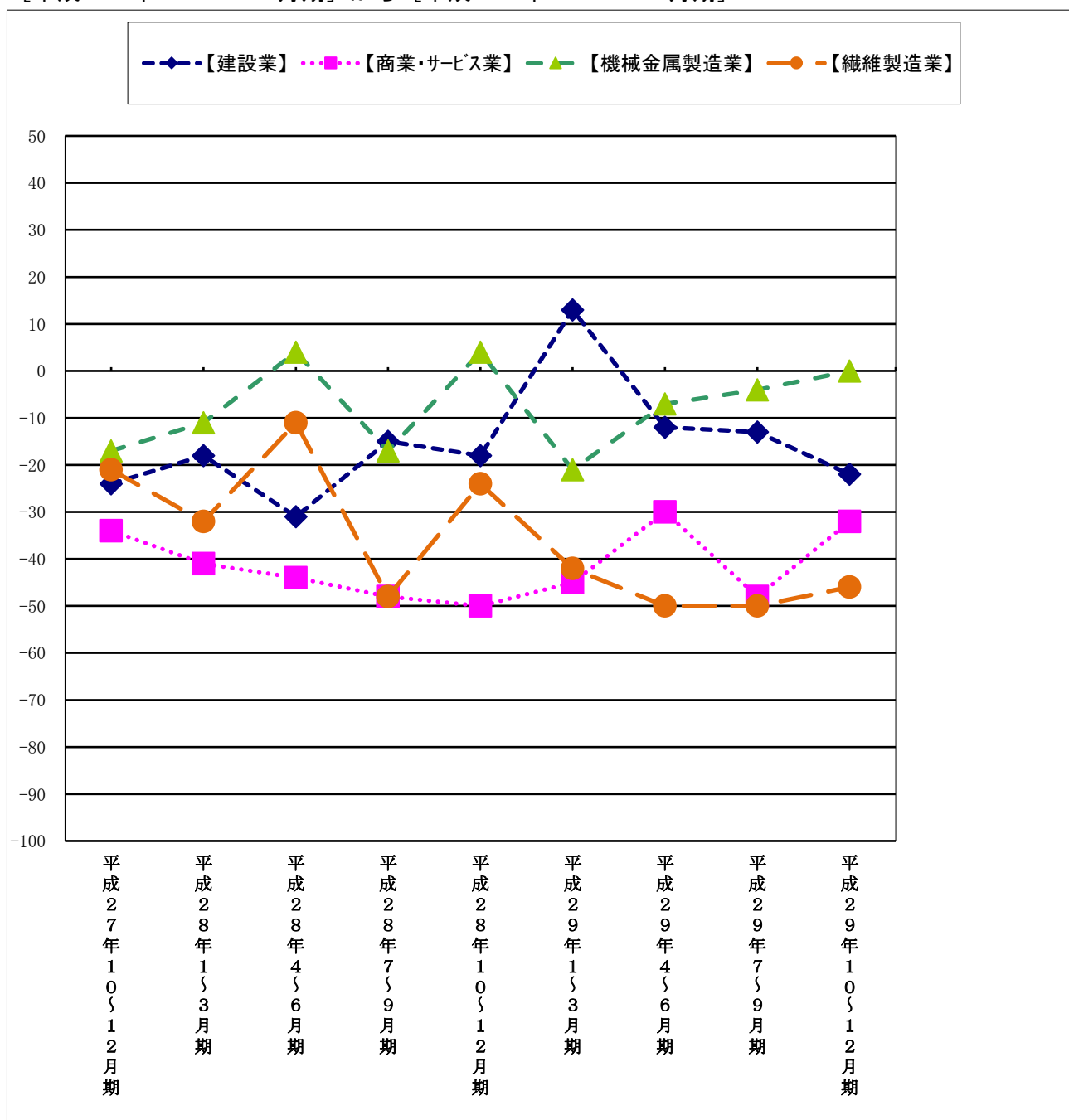
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「従業員の確保難」（15%）、「民間需要の停滞」（13%）、**商業・サービス業**では「需要の停滞」（17%）「消費者ニーズの変化への対応」（13%）、**機械金属製造業**では「従業員の確保難」（18%）「生産設備の不足・老朽化」「製品単価の低下・上昇難」（14%）、**繊維製造業**では「需要の停滞」（19%）「製品単価の低下・上昇難」（17%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成27年10～12月期	-24	-34	-17	-21
平成28年1～3月期	-18	-41	-11	-32
平成28年4～6月期	-31	-44	4	-11
平成28年7～9月期	-15	-48	-17	-48
平成28年10～12月期	-18	-50	4	-24
平成29年1～3月期	13	-45	-21	-42
平成29年4～6月期	-12	-30	-7	-50
平成29年7～9月期	-13	-48	-4	-50
平成29年10～12月期	-22	-32	±0	-46

[平成27年10～12月期] から [平成29年10～12月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-22**。前期比は-9、前年同期比では-4であった。
業種別では**建築・大工業 [-40]**、**土木業 [±0]**、**電気工事業 [-20]**、**その他 [-50]** であった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-19**。前期比-19、前年同期比では+16ポイントであった。

【商業・サービス業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-32**。前期比は+16、前年同期比では+18ポイントであった。
業種別では、**卸売業 [+25]**、**小売業 [-43]**、**飲食業 [±0]**、**サービス業では [-32]** となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-45**。前期比-4、前年同期比では+3ポイントであった。

【機械金属製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは±0**。前期比では+4、前年同期比では-4ポイントであった。
業種別では、**鉄鋼業 [-50]**、**金属製品業 [+33]**、**一般機械器具業 [+50]**、**輸送用機械器具業 [-20]**、**精密機械器具業 [+33]**、**プラスチック製造業 [-25]** となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-5**。前期比-5、前年同期比-10ポイントとなった。

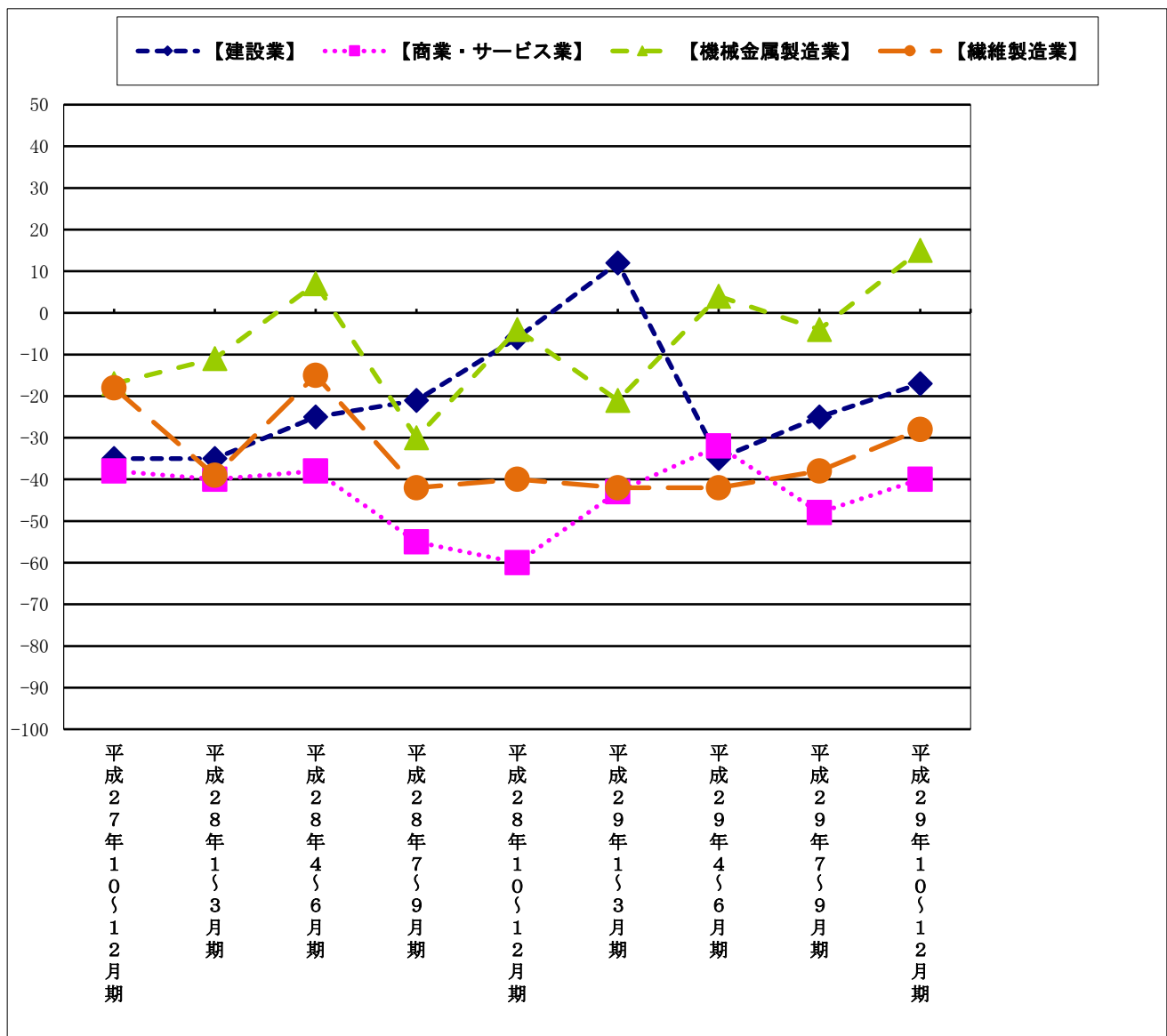
【繊維製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-46**。前期比では+4、前年同期比では-22ポイントであった。
業種別では、**燃糸業 [±0]**、**織物業 [-10]**、**染色整理業 [-100]**、**ニット・メリヤス業 [-67]**、**縫製業 [-100]**、**刺繍業 [-50]** となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-43**。前期比+10、前年同期比では-17ポイントであった。

売上額（完成工事額）DIの推移

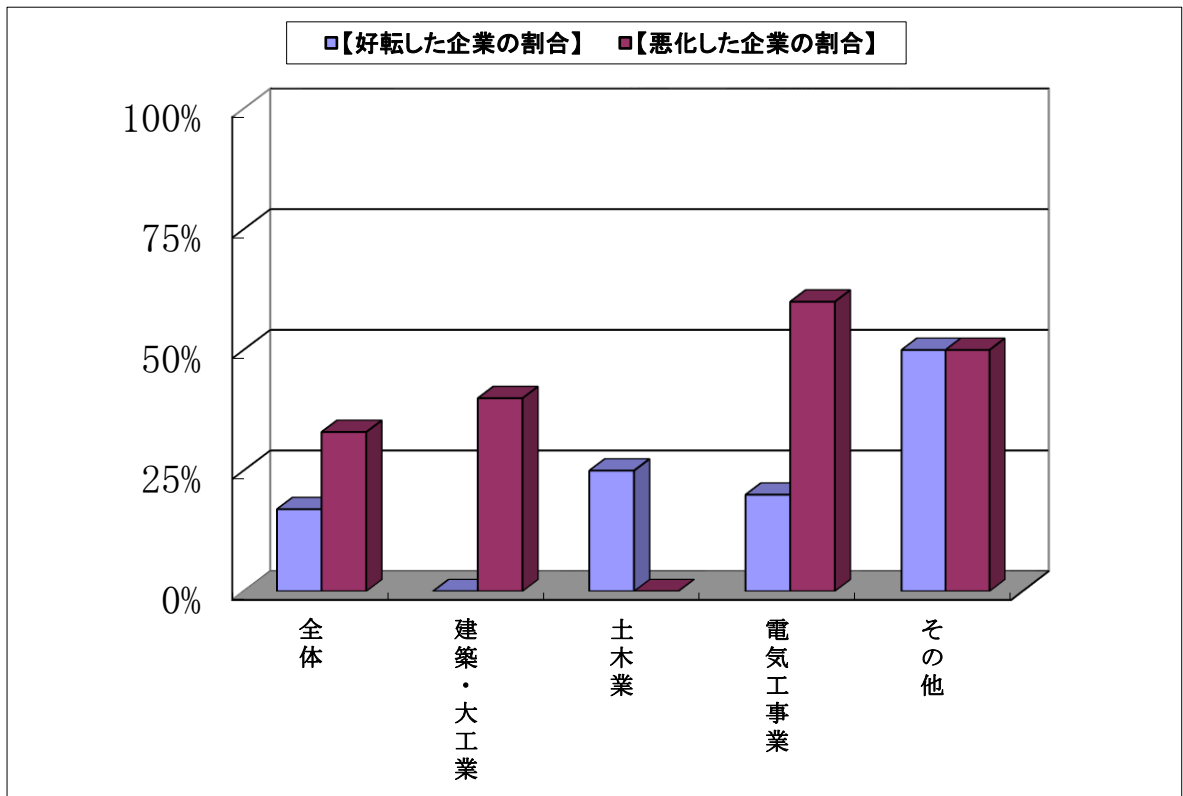
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成27年10～12月期	-35	-38	-17	-18
平成28年1～3月期	-35	-40	-11	-39
平成28年4～6月期	-25	-38	7	-15
平成28年7～9月期	-21	-55	-30	-42
平成28年10～12月期	-6	-60	-4	-40
平成29年1～3月期	12	-43	-21	-42
平成29年4～6月期	-35	-32	4	-42
平成29年7～9月期	-25	-48	-4	-38
平成29年10～12月期	-17	-40	15	-28

[平成27年10～12月期] から [平成29年10～12月期]

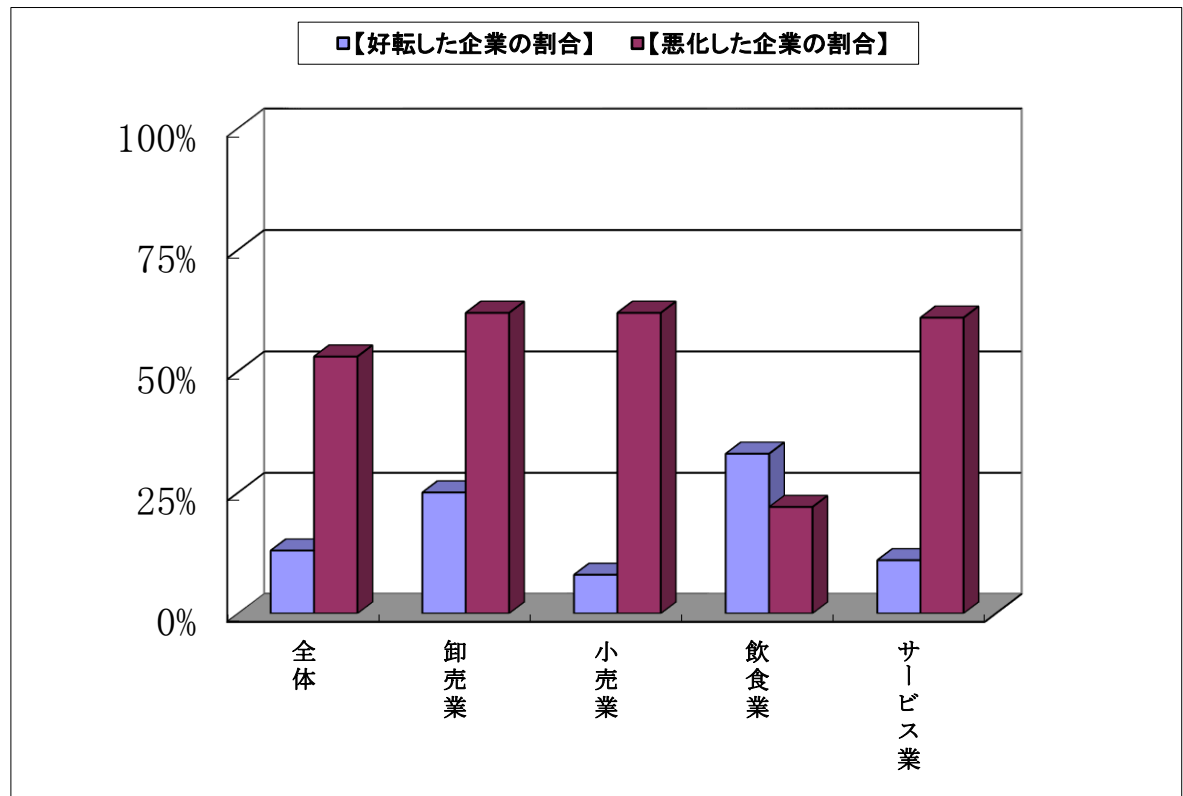


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

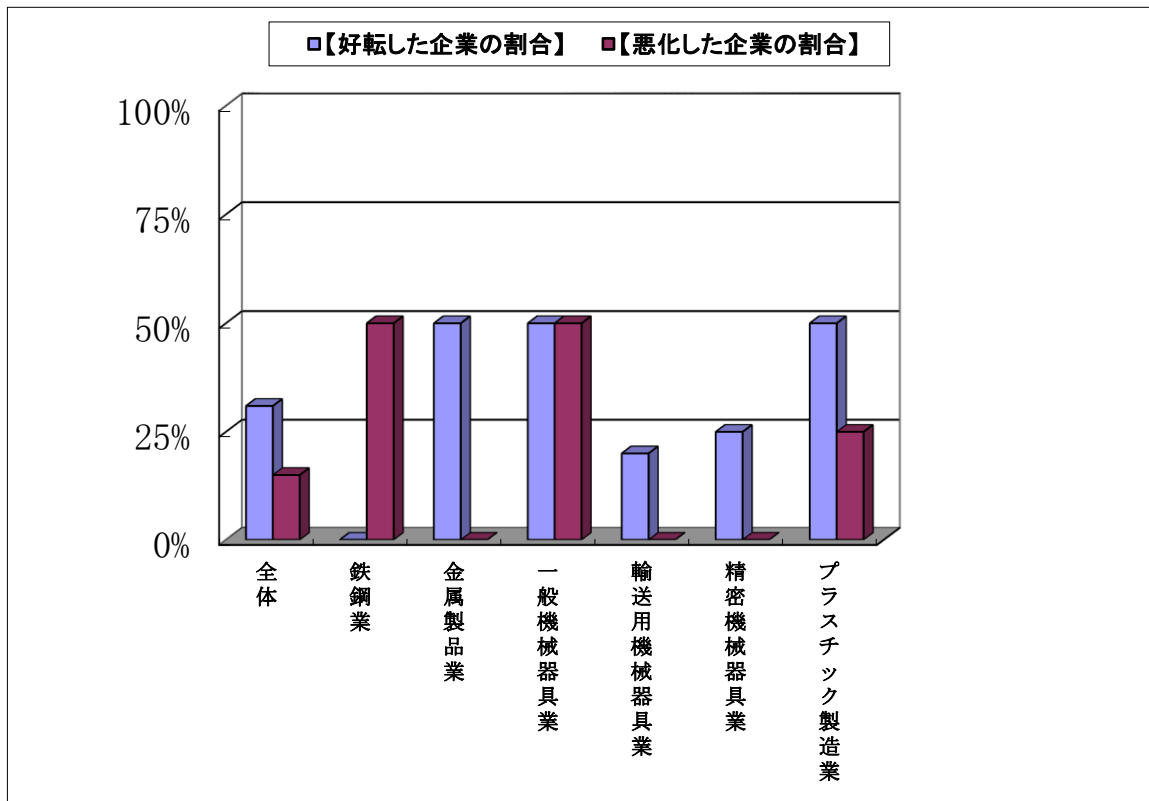
【建設業】



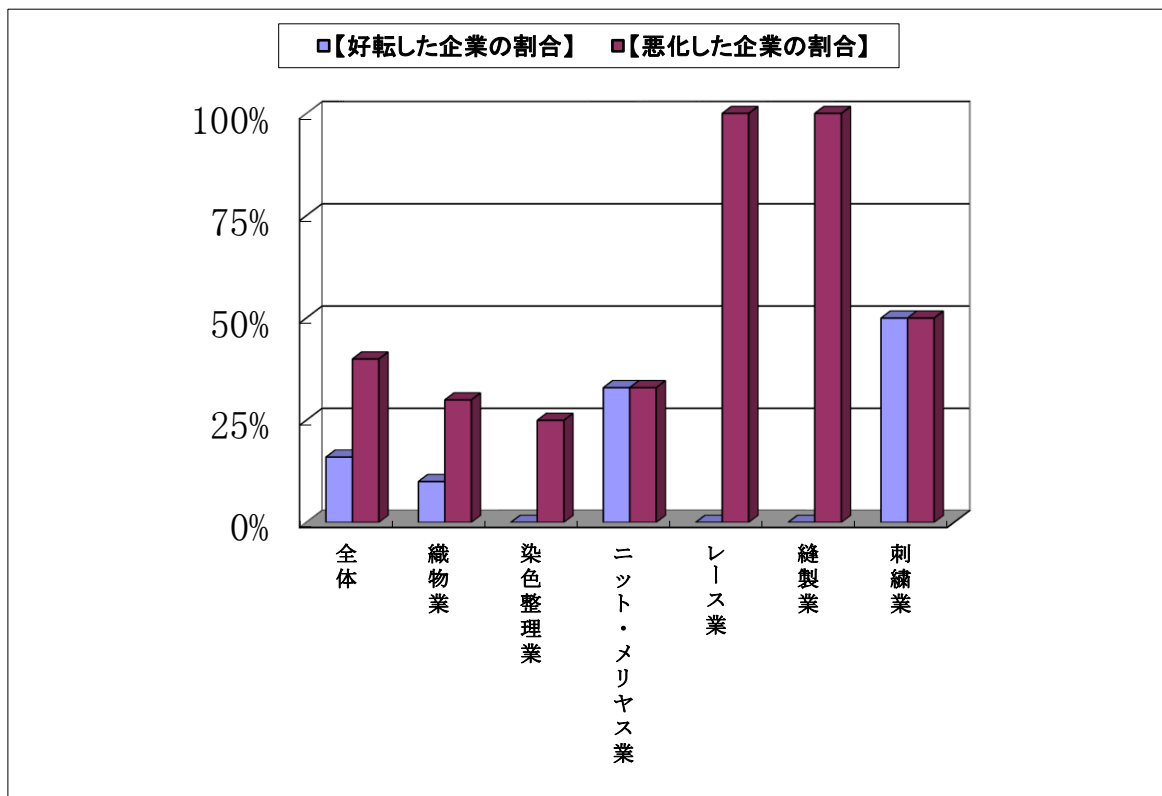
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



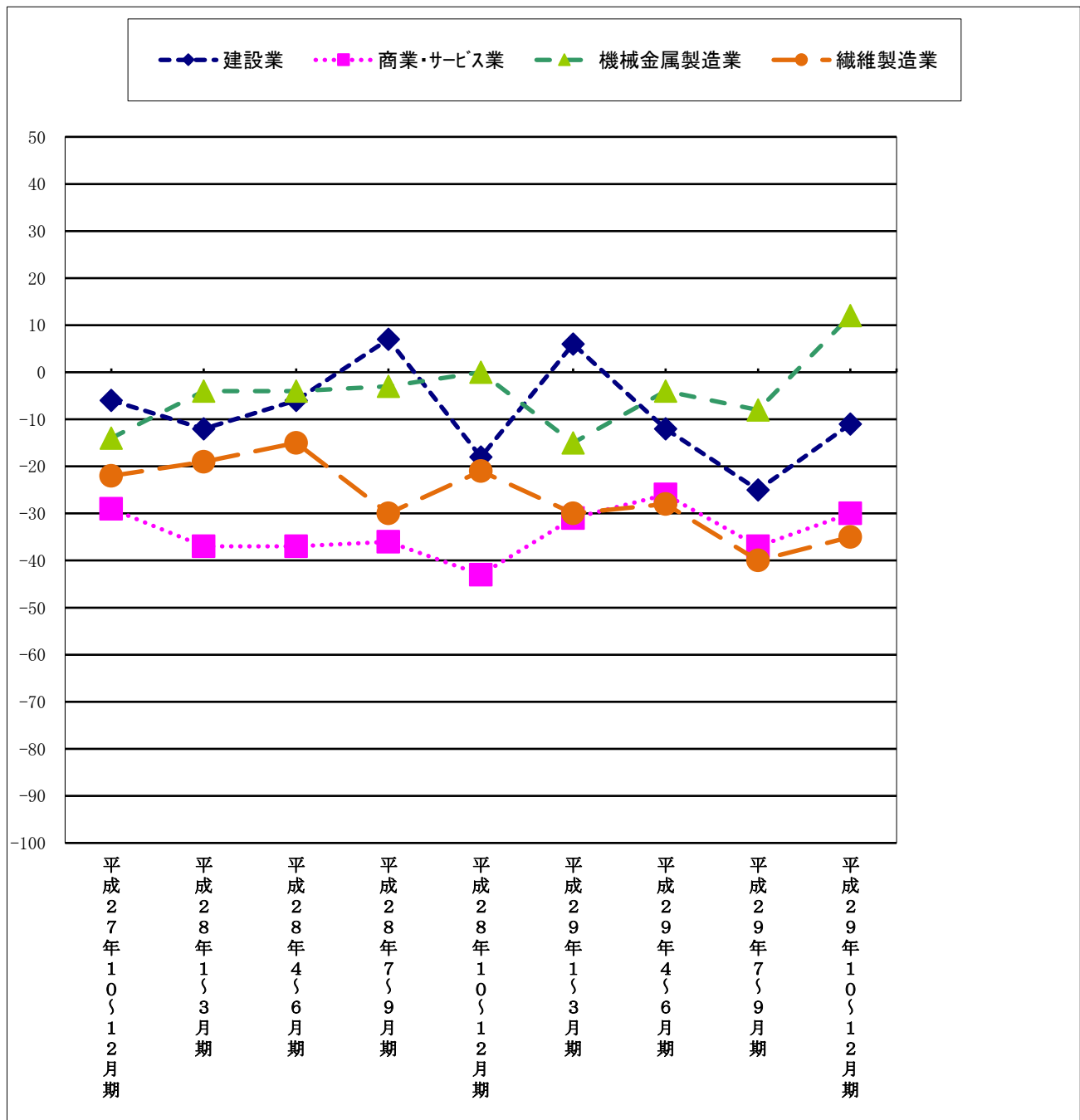
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成27年10～12月期	-6	-29	-14	-22
平成28年1～3月期	-12	-37	-4	-19
平成28年4～6月期	-6	-37	-4	-15
平成28年7～9月期	7	-36	-3	-30
平成28年10～12月期	-18	-43	0	-21
平成29年1～3月期	6	-31	-15	-30
平成29年4～6月期	-12	-26	-4	-28
平成29年7～9月期	-25	-37	-8	-40
平成29年10～12月期	-11	-30	12	-35

[平成27年10～12月期] から [平成29年10～12月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)	5位(%)
建設業	従業員の確保難 15.6	民間需要の停滞 13.3	官公庁需要の停滞 11.1	材料価格の上昇 11.1	熟練技術者の確保難 8.9	請負単価の低下・上昇難 8.9
前期	1位 22.0	2位 17.1	5位 4.9	4位 9.8	4位 9.8	3位 12.2
前年同期	1位 17.8	2位 15.6	3位 11.1	7位 6.7	5位 8.9	3位 11.1
商業・サービス業	需要の停滞 17.2	消費者ニーズの変化への対応 13.9	購買力の他地域への流出 7.8	大企業進出での競争激化 7.8	人件費の増加 7.8	
前期	1位 16.2	2位 14.5	3位 11.6	4位 8.1	8位 5.2	
前年同期	1位 18.8	2位 14.5	3位 10.9	7位 5.5	9位 3.6	
機械金属製造業	従業員の確保難 18.8	生産設備の不足・老朽化 14.5	製品単価の低下・上昇難 14.5	需要の停滞 11.6	製品ニーズの変化への対応 11.6	
前期	3位 13.3	2位 14.7	1位 16.0	6位 9.3	6位 9.3	
前年同期	3位 14.5	3位 14.5	1位 20.3	2位 15.9	5位 8.7	
繊維工業製造業	需要の停滞 19.4	製品単価の低下・上昇難 17.7	製品ニーズの変化への対応 14.5	生産設備の不足・老朽化 12.9	従業員の確保難 9.7	
前期	1位 24.2	2位 15.7	4位 10.0	2位 15.7	5位 5.7	
前年同期	2位 19.4	1位 22.2	3位 11.1	3位 11.1	7位 4.2	

今期の従業員数D I

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成27年10～12月期	6	-10	7	-8
平成28年1月～3月期	±0	-13	±0	-8
平成28年4月～6月期	±0	-6	-4	12
平成28年7月～9月期	-21	-5	-7	-5
平成28年10月～12月期	-24	-11	-8	-17
平成29年1月～3月期	-6	-14	-4	-13
平成29年4月～6月期	-24	-6	15	-13
平成29年7月～9月期	-13	-12	4	-26
平成29年10月～12月期	-6	-3	8	-8

事業所からのコメント（直面している問題点など）

【商業・サービス業】

- ・桐生市の人口減少に伴い、葬儀社が飽和状態にあり、かつ葬儀に費用をかけない傾向等で売上が伸びない（サービス業）
- ・お客様と店主の高齢化（小売業）
- ・需要の停滞で依然として厳しい状況が続いている。空き店舗・空き地も多くなり商店街としての魅力も喪失している。少子高齢化・人口減少もあり、個店の努力だけでは、なかなか改善していくのは難しい時代になっている。（小売業）
- ・店での売上は天候に左右されながらもアップ傾向。卸売は大手が進出、新規参入も増え売込みをしている。当社は地域に根ざしコツコツとしっかりした営業で提案内容の違いを理解してもらうよう努力を続けている。（サービス業）
- ・更なる中小企業に対する景気対策を図ってほしい。（小売業）

【繊維工業】

- ・海外より安価な製品が見本市場に多く販売されている為、今後は日本独自の製品開発が必要と感じている。（レース業）
- ・引き合いが少ない。（刺繍業）

【機械金属】

- ・取引先の売上好調と共に仕事量が増加するが、コスト引き下げが厳しいため利益につながらないことと、人手不足。（プラスチック製造業）
- ・引き続き受注量はあるものの厳しい原価低減要請により採算は悪化に向かいつつある。社員の高齢化、採用不調もあり先行きの不安は拡大している。（金属製品業）

【建設業】

- ・従業員、技術者、下請け業者の確保が困難な状況で人手不足。（土木業）
- ・技術者及び管理者不足が最大の問題。引き合いに対し人員の配置が難しい。（管工事）